

安保法制は違憲だ！ 原告ら 49 人の生々しい体験

私たちは戦争を許さない

—安保法制の憲法違反を訴える

安保法制違憲訴訟の会 編

四六判・並製カバー 208 頁 本体 1300 円+税

安保法制の違憲を訴えて、いま多くの市民が立ち上がっている。戦争体験、将来への憂い、安保法制批判の声を集めた闘いの記録。

8/4
刊行

本文より

現在起こしている裁判は、この「安保法制」によって私たちが受けている被害を訴えています。戦争しないと謳った憲法の下で暮らしていたことの幸せはなかなか気づかないものです。でも、どうでしょう、この本の中で語る原告の方たちの話は。……歴史は、あとから見れば載然（せつぜん）と残る軌跡ですが、その時代その時代には、ひとり一人がさざ波を起こし、ときに化学反応を起こしながら作っていくものです。私たちは、その一人なのです。……一緒に歴史を作りましょう。（「あとがき」より）

* * *

日本が戦争をしないと決めたことで、この孤児の苦しみは私たちが終わると思っていました。ところが、憲法九条に違反して、また戦争をする国になる法律が作られてしまいました。……この新しい安保法が作られ、私は自分の身が引き裂かれそうな思いです。（戦争体験者・金田マリ子さん）

* * *

戦争は、殺し殺されるものです。……息子が、専守防衛を超えて、海外で殺し殺される場に立つことを想像すると、胸は潰れ、こころは乱れます。（自衛官の父・富山正樹さん）

* * *

集团的自衛権の行使容認を政府が決めてから、日本の船舶が安全ということは全くなくなりました。……むしろ日本が攻撃対象として扱われる事態になっており、海運業界を初めとする運送に関わる業界にその影響がもろに出てくるのではないかと非常に恐れています。（元船員・本望隆司さん）

*お近くの書店でお求めください。店頭がない場合は、本紙をお持ちになり、書店にてご注文ください。

*直送ご希望の場合は、下記にお電話いただくか、本紙に必要事項をご記入の上、FAX にてご注文ください。（送料 380 円が別途かかります）

▶岩波書店〈ブックオーダー係〉 TEL: 049 (287) 5721 FAX: 049 (287) 5742

購入申込書	※申込書に記入された個人情報、ご注文の書籍の発送およびご連絡のみに使用します。	ご注文数	取扱書店
私たちは戦争を許さない —安保法制の憲法違反を訴える 本体 1300 円+税 ISBN 978-4-00-061211-1 を購入します	●ご住所 〒 ●お電話 ●お名前		

岩波書店 〒101-8002 東京都千代田区一ツ橋2-5-5 Tel 03-5210-4000 (案内)

HP <http://www.iwanami.co.jp/> / Twitter @iwanamishoten

予定目次

まえがき 寺井一弘・伊藤真（共同代表・弁護士）

第Ⅰ章 安保法制 いま何が起きているのか

- 1 戦争犯罪への加担 「知る権利」が危機に 志葉玲（戦場ジャーナリスト）
- 2 中東からの信頼を破壊 岡本達思（パレスチナの子どもの里親運動）
- 3 民間機も標的に 山口宏弥（元国際線機長）
- 4 脅かされる空の安全 齋藤晃（元自衛官）
- 5 後方支援で生じる船舶の危険 本望隆司（元船員）
- 6 ジャーナリズムの危機が人生変えた 飯田能生（元NHK記者）
- 7 街頭に立つ自衛官の父 富山正樹（自衛官の父）
- 8 横須賀基地と原子力空母 新倉裕史（基地周辺住民）
- 9 宣教師の活動にもリスク 安海和宣（宗教者）
- 10 安保法制は沖縄県民の生活と安全を脅かす！ 下地聡子（弁護士）
- 11 ナガサキ 語り部として 吉崎幸恵（被爆者）
- 12 憲法九条は写真家としての私の背骨 大石芳野（写真家）

第Ⅱ章 戦争体験と平和への祈り

- 1 孤児の苦しみ繰り返すな 金田マリ子（戦争体験者）
- 2 東京大空襲の記憶 河合節子（戦争体験者）
- 3 被爆者を踏みにじる安保法制 田中熙巳（被爆者）
- 4 平和教育研究者の苦悩 堀尾輝久（教育学者）
- 5 「愛国少年」を作る政治を許すな 彦坂諦（作家）
- 6 父を苦しめた戦争体験 高橋俊敬（診療所事務長）
- 7 幸せを根こそぎ奪い去られ 渡邊紘子（戦争体験者）
- 8 連なり歩く被爆者の列 誰一人まともに生きてなかった 牟田満子（被爆者）
- 9 過ちは繰り返さない 服部道子（被爆者）
- 10 地獄絵図の戦場 猪熊得郎（シベリア抑留者）
- 11 憲兵だった父の遺言 倉橋綾子（戦争被害者家族）
- 12 自民改憲草案の地盤固めか 横田幸子（戦争体験者）
- 13 被爆三世の立場から 太田久美子（弁護士）
- 14 戦争は経験したくありません 松本悠梨花（大学生）

第Ⅲ章 脅かされる平和と市民生活

- 1 若者も感じる現実的不安 荒尾歩（高校生）
- 2 原発が攻撃されたら 小倉志郎（元原発技術者）
- 3 貨物列車の運行にも危険 橋本次男（鉄道運転士）
- 4 爆音被害と墜落の心配 山村充夫（元鉄道運転士）
- 5 戦争社会は障がい者を疎む 原かほる（地方公務員）
- 6 もうこの国に住めなくなるかもしれない 崔善愛（ピアニスト）
- 7 子どもたちを守りたい 辻仁美（ママの会）
- 8 元レンジャー隊員、安保法制への怒り！ 井筒高雄（元自衛官）
- 9 元海上自衛隊員から見た安保法制 西川末則（元自衛官）
- 10 隊員たちの命は安倍政権の都合の良いオモチャではない 末延隆成（元自衛官）
- 11 戦争は女性を否定する 角田由紀子（弁護士）
- 12 性暴力のない世界を 高里鈴代（元那覇市議会議員）

第Ⅳ章 私たちは訴え続ける

- 1 立憲主義を守りたい 菱山南帆子（福祉施設職員）
- 2 「慰安婦」抹殺を許さない 池田恵理子（元NHKディレクター）
- 3 キリスト者として声を上げる 平沢功（宗教者）
- 4 女たちの違憲訴訟 中野麻美（弁護士）
- 5 安保法制違憲訴訟に関わる憲法研究者の思い 飯島滋明（憲法学者）
- 6 憲法教育者の苦悩 志田陽子（憲法学者）
- 7 教科書裁判の否定に抗議 俵義文（戦争体験者）
- 8 原告として、弁護士の命をかけた闘い 吉岡康祐（弁護士）
- 9 平和的生存権の意義 石村善治（戦争体験者）
- 10 安倍流改憲は危険な目くらまし 脇正太郎（ジャーナリスト）
- 11 安保法制の違憲性と立憲主義の破壊 福田護（弁護士）

解説 安保法制違憲訴訟と原告らの置かれた立場について法的な視点から 青井未帆（学習院大学大学院教授）
あとがき 杉浦ひとみ（事務局長・弁護士）